

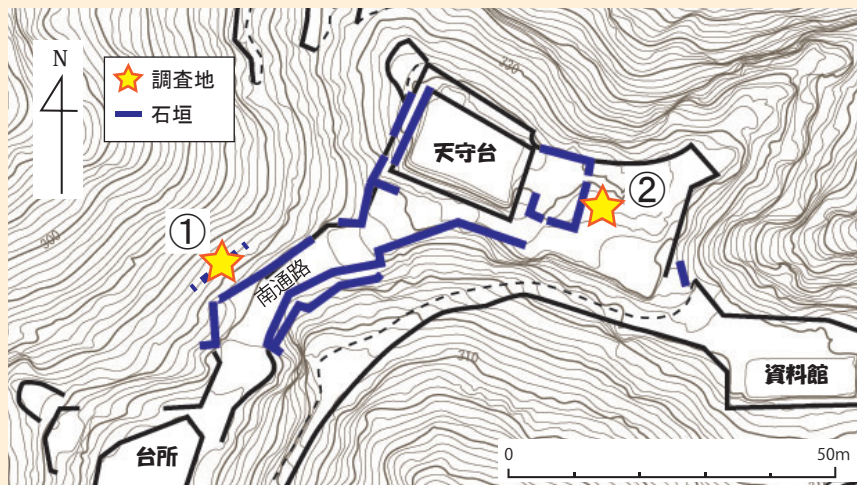
# 令和5年度史跡岐阜城跡発掘調査成果

令和5年度岐阜城跡現地説明会資料

令和6年2月10日(土)

岐阜市文化財保護課  
公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団

今年度は、①<sup>てん しゅみなみつう ろにしがわ</sup>天守南通路西側と、②<sup>てん しゅひがしがわ</sup>天守東側の2箇所<sup>2か所</sup>で発掘調査を実施しました。



## ①天守南通路西側の調査 下段石垣の発見

天守南通路西側では、信長公時代とみられる石垣の下段を確認しました。

この通路の東側では、2段の石垣が露出していました。今回の調査で、通路の西側も2段の石垣により構築されていることがわかりました。

これらの石垣は、江戸時代の絵図『稲葉城趾之図』にも描かれています。



確認した下段石垣



絵図に描かれた天守周辺の石垣

(『稲葉城趾之図』、江戸時代、伊奈波神社所蔵)

## ①天守南通路西側の調査

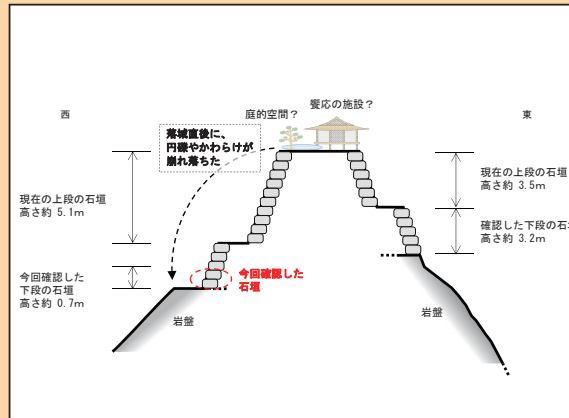
### 石垣前面で見つかった円礫と素焼きの皿

下段の石垣の前面から、円礫（平らな河原石）と素焼きの皿（かわらけ）が大量に出土しました。出土状況からみて、上部の「通路」と考えていた場所から落ちたものと見られます。

円礫は「庭的空間」に用いたものの可能性があります。また素焼きの皿は「饗応の施設」（おもてなしをする場）で用いられる遺物です。

山麓の居館跡で庭園は確認されていましたが、山上部で、その存在をうかがわせる遺物が出土したのは今回が初めてです。

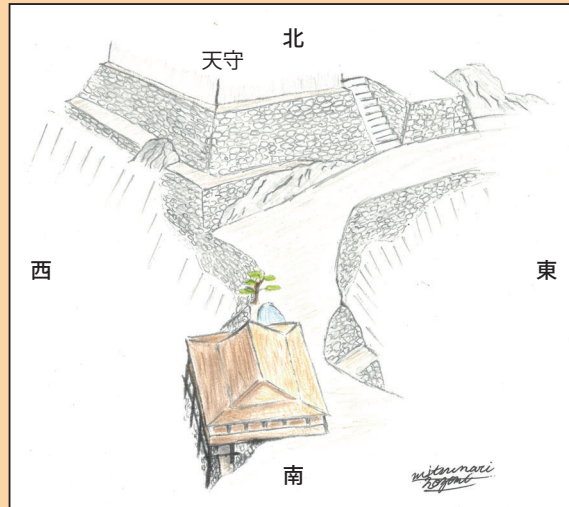
これまで「通路」と考えていた場所に、庭園や景色を見せて客をもてなす施設があった可能性が高いと考えられます。



通路のイメージ断面図



出土した円礫



庭的空間の想像図

## ②天守東側の調査

### 石垣と小規模な平坦地を発見

天守東側では、昨年度の調査で、石垣の前面に瓦を大量に含む層が堆積している状況を確認しました。

今年度の調査では、この瓦の層の発掘および、石垣と裏込めの検出をしました。石垣は岩盤を加工しながら石材を積んでいます。

また、石垣の前面に水平に整地された層を発見したことから、この場所に小規模な平坦地が存在したことがわかりました。



石垣と石垣前面の平坦地